



### 受け継がれる開拓者精神。

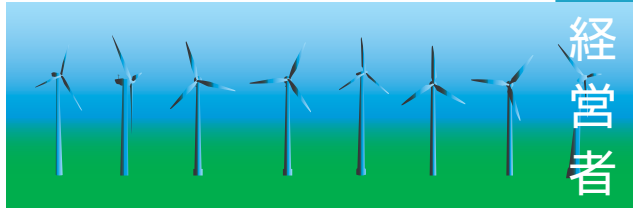
昼なお暗く原始の森が生い茂る鬱蒼たる獣道を行く時、いったい人はどれほどの逞しさを身につけなければいけないのでしょうか。

現在でも深い森に包まれる稚内市郊外の増幌は、渡辺義範さんが生まれ育った場所。祖父が福島県から農地開拓のためこの未開の地に足を踏み入れたのは、いまからちょうど105年前のこと。やがて父の代になり生業は馬の繁殖、そのかたわらで造林事業を手掛け、やがて高校進学が決まった息子（義範さん）に「酪農の夢」を託したのです。

「稚内商工高校へ通っていた頃から、家の酪農を全部任せられました。高校進学先に商工を選んだのも農業に機械化の時代が来ることを予測してのことでした。振り返れば私は高校生でありながら、すでに酪農経営者でした。始まりは25頭ほどだったと思います」。

渡辺さんが経営する(有)稚内グリーンファクトリーのほど近くに小さな神社の祠があります。その横には御影石と思われる重厚な碑が

※イラストはイメージです。



平成29年稼働予定  
3000kW級10基建設を目指す  
天北風力発電所(仮名)

# 渡辺 義範さん

〔有)稚内グリーンファクトリー〕代表取締役

## 「最北端から食料とエネルギーを全国へ」。 酪農家からコントラクター事業に進出し、 15年越しの夢「風力発電事業」がまもなく実現！

建っていて、こう書かれていました。「宗谷酪農発祥之地」。平成9年に増幌開拓百年を記念して建立されたもので、宗谷地方の酪農が、まさにここ増幌から始まったことをいまに伝えていきます。

現在の集落人口は約百人。世帯にすると30前後。その小さな地域の中で大きな夢を叶えて来たのが渡辺さんです。増幌で三代目となる彼の血の中にも間違いなく逞しい開拓者精神が継承されています。

「35歳の年に会社を設立する前までは、屋号になっている家内（渡辺尋美副社長）と二人三脚で酪農を営んでいました」。乳牛約30

0頭を飼育し、年間800トンは個人経営では全道トップクラスで、高く評価されていただけに周囲は酪農に反対しましたが、一度やめると腹をくくった渡辺さんの意志がブレることはありませんでした。

「すでに高齢化と後継者不足問題は深刻でした。私は酪農家を辞めた後も農業の世界から離れるつもりは毛頭なく、地域農業を支える仕事、お手伝いをするコントラクター事業に着手することにしました」。

それまでは農家が個別にトラクターなどの機械や設備を所有するのが当然でした。天候を見計らい集中的に行わなければならず、大

規模であればあるほど広い土地を個人で管理するのは困難を極めます。渡辺さんは、農作業の一部を受託するコントラクター事業の先駆けとして新しい夢を追いかけることになりました。

「ただ請け負った仕事に、従業員と共に誠実に対応して来ただけです」と謙遜していますが、仕事の仕事と呼んで来るのです。例えば農業土木の実績が認められ、一般土木工事も請け負うように。サイレージづくりには欠かせない車両での運搬は一般貨物自動車運送事業に発展。農家や農道の除雪作業は、

いつしか市の委託指定業者となり、社員の冬期雇用役に役立つこと。さらに自社で購入した岩盤山から採石した稚内珪藻土の販売。そして、

なお、渡辺さんの祖父が福島県出身という縁故もあり、東日本大震災に対する支援事業として、これまで同社では被災者の受け入れを実施し、住まいと仕事を提供して来たことも伝えておきたいと思えます。



好きな言葉  
「やってみせ、言ってみせ、聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」 山本五十六の名言

造林・造園事業のため増幌周辺の山や土地をコツコツと買い求め、植樹を行って来たことが、今回の(株)天北エナジー設立と、新事業である風力発電事業へつながって来ました。

「幌延に高レベル放射性廃棄物貯蔵施設の話があった頃から、酪農業を営む者として風評被害を恐れ反対してました。ただし、反対するからには何らかの代替エネルギーを考えなければならず、約15年前から風力発電事業を考えていました」。しかしここに至るまでは一筋縄では行きませんでした。

「北電さんは、平成14年度以降新たな風力発電による電力導入を中止していました。道北地域は送電線の容量も小さく、前年度の募集

が最後でした。私の夢も遂に閉ざされたかと思えました。ところが平成23年3月11日、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故が起き、状況が一変するのです。政府は再生可能エネルギー特別措置法（固定価格買取制度）を制定し、

11月に北電も20万kW（道北は3万kWまで）の購入拡大を発表したのです。そこで平成24年2月の抽選会に当社が応募し、同年10月31日、正式に権利が確定しました。それはもう泣けるほど嬉しかったです。

「正に三度目の正直でした」と、一見強面な顔の表情がゆるみ、ニコッと優しく笑みをこぼす渡辺さん。「ようやく環境影響評価（環境アセスメント）を終えたところです。

遅くとも来春着工、2年後の完成を目指します。自社の山林の一部の土地に、出力3千kW級が10基並ぶ計画です。最大発電出力は3万kW、1万世帯相当に換算されます」。

渡辺さんの夢はこれで終わりではありません。目標は風車200基。「私のモットーが『最北端から食料とエネルギーを全国へ』なものですから、大都市東京に買っただけだ」と胸を張ります。

ぜひ注目してまいりましょう。渡辺さんは地域活性化のために、宅地を無償で提供したり、「社員は宝」との心情をもとに地域に社宅も用意し雇用を確保しています。いま一番の楽しみは、孫と遊ぶことだとか。



自走ハーベスターによる牧草収穫作業  
サイレージづくりは、草刈り、収穫、積み込み、鎮圧、そしてラッピングまで全工程を大型の特殊機械（重機）で行っている。



稚内珪質頁岩の採石場（自社所有の岩盤山）  
稚内珪藻土は、一般のものより水分を多く吸着。優れた調湿機能や脱臭作用などがあり、内装壁材としてトップクラスを誇る。